

平成22年度行政審査報告に係る市の対応策

行政審査事項	審査の指摘事項	市の対応策
はじめに	<p>観光は、まちが発達、発展していく上で、議論されなければならない大変重要なテーマである。なぜなら、観光は経済波及効果が高く、観光事業を充実させることにより、観光する人、受け入れる人、双方に多大なメリットをもたらし、まちを活性化させ新たな投資を呼び込む起爆剤になるものだからである。少子高齢化の進展により、人口減少社会が到来した日本において、観光事業の充実は、地域における消費活動の増加や新たな雇用創出をもたらすことが注目され、さらに成長するアジア諸国等の活力も取り込み、今後、観光産業に対する期待は大きい。国は、2010年までに訪日外国人旅行者数を1,000万人、2020年までに2,000万人にし、日本人海外旅行者数を2010年までに2,000万人にするという目標（観光庁アクションプラン）を掲げており、群馬県は、2012年度に群馬県への観光客総数を7,000万人、宿泊客数を900万人、外国人旅行者数を11万人にするという目標（はばたけ群馬観光プラン）を設定した。本市においては、平成19年に「新生太田総合計画」が策定され、平成23年度までに市内年間観光客を3,758,900人にするという目標が定められた。国、県、市において、観光事業に取り組む上で、数値目標を設定することは大変意義のあるものであるが、目標を掲げるだけでなく、その目標を達成するための手段や方法、過程を議論し、その目標値に近づけていく不断の努力が求められよう。このようなことから、本委員会は、本市における観光行政について取りまとめることとする。さらには、歴史的な文化財や経済システムなど関連する事項にあわせての見解などを含め、地域、市民、事業者、行政との協働・連携を呼びかけていくことも意図した。さらには、本市の観光事業に関する現在の取組みの検証と、今後の展開に係る計画の先見性等を明確にすることを目的とし、観光施設等の現地調査や、所管課に対するヒアリング等を行い審査の結果を取りまとめたものである。</p>	
審査の結果	<p>本委員会において、観光行政を行政審査テーマとし、議論や観光所管課に対するヒアリング、観光施設の行政視察を重ねてきたが、その中で本市における観光事業に係る多くの課題が見受けられた。まず、根本的な問題として、観光に対する本市全体の意識改革をしていかなければならないだろう。これは、行政だけでなく、民間事業者、地域の人々が観光事業に対する必要性の認識を再確認し、その意識の構築があらゆる観光事業施策に先立つものとするべきである。本市は関東屈指の製造品出荷額を誇る工業都市であるが、2007年のサブプライムローン問題、2008年のリーマン・ショックを起因とする金融危機の影響により、本市経済における地盤沈下が顕在化してきており、工業に頼るといって現在の体制を少なからず見直す必要があるだろう。もちろん、工業都市である本市における第2次産業の重要性は今後も変わることはないだろうが、第3次産業の、とりわけ観光産業をさらに充実させていくべきである。なぜなら、冒頭で述べたように少子高齢化が進展し人口減少社会が到来した日本においては、観光産業の充実、地域経済の消費活動を活性化させ、また新たな雇用の創出、インフラ産業の需要増、更なる投資の呼び込み等、多くの経済効果を期待することができるからである。本市の観光事業の大きな課題として、観光テーマやターゲットが不明確であり、さらに、観光産業のPR不足が挙げられる。本市の観光案内としてホームページや広報誌、他のメディア等でPRしているが、未だ不足しているように思える。例えば、縁切寺満徳寺資料館は民放テレビ局の取材を受け、数回にわたりテレビ放送された。このことにより、観光客数は大幅に増加したとのことから、テレビ放送によるPRの影響は大きいものと考えられる。テレビに限らず、他のメディア等を通じて、観光のまちとして売り出し観光客を増加させていかなければならないだろう。また、前述したように本市は工業のまちであり、その中でも富士重工業が大きな割合を占める。富士重工業のスパルビジターセンターでは、工場見学を実施しており、観光施策としても有効に成立していると考えられる。工場見学により観光客を本市に呼び込むこととなり、これは太田市のPRや、スパル車の製品の購入意欲の喚起、消費活動等を後押しするものである。このような企業活動と観光産業の融合は本市独特のものであり、工業都市と観光都市を両立させるため、今後も行政としてサポートしていくべきであろう。</p>	<p>商業観光課</p> <p>平成22年度の市民満足度アンケートでは、観光事業の推進については、重要度29位、満足度31位といずれも下位にあり、過去3年間同様の順位で推移しています。現状での観光に対する市民のイメージは「観光は市外に出かけて行くもの」であると考えられます。商業観光課としては、多くの市民の皆さんが出かけた先で太田市をPRしていただけるよう、市内の観光資源について理解を深めていただくための市民向けの観光モデルコースを作成し、バスツアー等で実際に体験していただく「ふるさと再発見バスツアー」を実施いたします。PRするポイントは①健康づくりと観光②食と観光③産業観光の3本柱を基本に展開します。</p> <p>【健康づくりと観光】本市のシンボルである金山山頂からは、気象条件により富士山や東京スカイツリーを始め360度のパノラマ展望が満喫できることから、健康づくりと観光を兼ねたハイキングを中高年層を中心に積極的にPRします。</p> <p>【食と観光】食を通じての観光PRが誘客増に寄与している実態が全国的に実証されており、B級グルメの先進地では全国的な知名度で数十億円の経済効果をもたらされた例が多くあります。太田市でも「上州太田焼きそば」は富士宮やきそば、横手やきそばと3国同麺を結び日本3大焼きそばとしてPRして参りました。昨今のB級グルメブームによりマスコミで取り上げられる機会も増え、県外からの誘客増に繋がっております。この機会を捉えて焼きそばのれん会と共同して仮称「イベント応援隊」を組織し、多くの市外イベントへ出店し太田市をPRできる体制作りを行います。</p> <p>【産業観光】本市の特徴である、ものづくりの町を観光に生かした産業観光につきましては、工場見学を受け入れていただける企業の業務形態等の制約がありますが、より多くの受入企業の開拓を行い、若者世代を中心にファミリーで楽しめる新たな視点での観光を取り入れます。</p> <p>これらを軌道に乗せるには行政だけでは困難であることは明白のため、商工会議所や観光協会、関係諸団体との連携を充実しながら推進いたします。メディアを使ったPRについては、群馬県観光国際協会や鉄道関係と連携を図り、テレビ・ラジオ・新聞等を幅広く活用し、タイムリーに仕掛けて多くの人の目に留まるよう工夫します。観光施策の充実、費用対効果を考慮しながら推進することが大切となります。今年3月には北関東自動車道が全面開通し、2年後には尾島地区に道の駅のオープンが予定され、県外からのアクセスがより便利になり、太田市の観光をPRする機会が大幅に広がると考えております。太田市が単なる通過点にならないよう関係課と連携し努力して参ります。</p>

平成22年度行政審査報告に係る市の対応策

行政審査事項	審査の指摘事項	市の対応策
<p>提言</p>	<p>(1) 観光産業に対する意識改革 観光産業の拡大は本市経済において、重要課題の1つであるという認識を本市全体で共有していく。</p> <p>(2) PR活動の強化 PR活動を充実させていくことは、時間と手間と費用が必要とされ、直ちに効果が表面化するものでないかもしれないが、情報が発信されなければ観光資源は埋もれてしまうため、長期的視野を持ち、先を見据えた視点からPR活動は行われなければならない。</p> <p>(3) 観光客受入体制の拡充</p> <p>①観光案内所の規模を充実させる。例えば観光案内所に観光ガイドを常駐させることや観光案内所の休日の営業時間の延長、指定管理者制度の導入等も検討するべきである。 ②2次交通手段としてのバスやレンタカー等を充実させ、徒歩や自転車により観光施設へ移動する観光客のためにも専用道路を整備する。 ③車で本市を訪れた観光客のため、観光施設付近の道路の拡幅工事や駐車場の整備を進める。 ④蓑塚温泉を観光宿泊客の拠点となるように整備、活用する。 ⑤外国人観光客のため、外国語標記の案内標識や外国語を話すことができる観光ガイドの設置等に取り組む。</p> <p>(4) 本市観光資源の開発、発展</p> <p>①太田焼そばが県外から観光客を集客する観光資源に発展するように取り組む。 ②1日滞在することができるような観光施設の設置等に取り組む必要がある。 ③イベントにおいて、若い人たちの積極的な参加はより活気のあるものになるため、例えば太田市立商業高等学校や関東学園大学の学校と連携し、若い人たちがイベントに参加しやすい環境を整備する。 ④本市は、やまといもや紅こだまスイカ等、有名な農産物があるため、2次産品として加工し、新たな特産物として開発し、食による観光資源の開発を行う。 ⑤歴史的価値を持つ観光資源等を中心として本市の観光テーマを定め観光事業の開発を行う。 ⑥本市は金山八王子丘陵の緑と利根川や渡良瀬川の水資源に恵まれた自然豊かな地域であるため、これらの自然環境を観光資源として活かす。 ⑦工業都市である本市の特長を活かした新たな産業観光事業開発を行い、産業観光の観点から連携を強化していく。 ⑧本市を中心とした広域的な観光資源と連携した新たな観光開発を行う。</p> <p>(5) 地域（市民）・民間事業者・行政の協働</p> <p>①地域（市民）の役割 本市を訪れた観光客へのおもてなしの心を持つことを心がけ、観光客が気持ちよく本市を観光できるような環境を作り上げる。</p> <p>②民間事業者の役割 観光客のニーズに応じた多様なサービスを提供する。また、お土産を充実させる必要がある。</p> <p>③行政の役割 観光政策の立案等を行い、インフラの整備や地域、民間事業者との調整役となることが期待される。そのため、太田市観光基本計画等の策定や観光に関する専門部署の設置等を検討する必要があるだろう。また、本市における観光情報について、県外、国外に対しマスメディア等の利用によるPRをし、活発な情報発信をすることに取り組むべきである。さらに、行政から東武鉄道に働きかけ、タイアップを強化させ、鉄道を利用した本市への観光客等集客の増加につながる事業の検討も必要であるだろう。</p>	